



畑の面積 : 2,12 ha

Age of the vines : 40 years

Average annual production : 10 000 bottles

Grape variety : Pinot Noir

2013年はまたしてもブルゴーニュのヴィンニュロンたちに手厳しい試練を与える年となりました。醸造所に健康なブドウを持ち帰るためには、シーズン中、ベト病とウドンコ病との熾烈な戦いを強いられました。

5月という季節を迎えても月間通じて寒々とした雨に見舞われ、そのことが大きく起因して収穫が遅れました。私たちのドメーンでは10月6日にヴォーヌ・ロマネの畑からブドウを摘み始め、17日にオート・コートで終わりました。この年より遅い収穫年といえ、1978年まで記憶を遡らなければなりません。開花後期の天候の崩れが原因で花振るいが多く見られ、殆ど全ての房がミルランダージュとなって小さな粒を纏いました。そのため、平年と比べ収量は30~40パーセント落ち込みました。

しかし、このミルランダージュこそがヴィンテージを救うことになったのです。

7月に暑い日が差した以外はパツとしなかった夏の不順な天候下でも、負担の少ない小ぶりのブドウ房はパーフェクトに熟してってくれました。

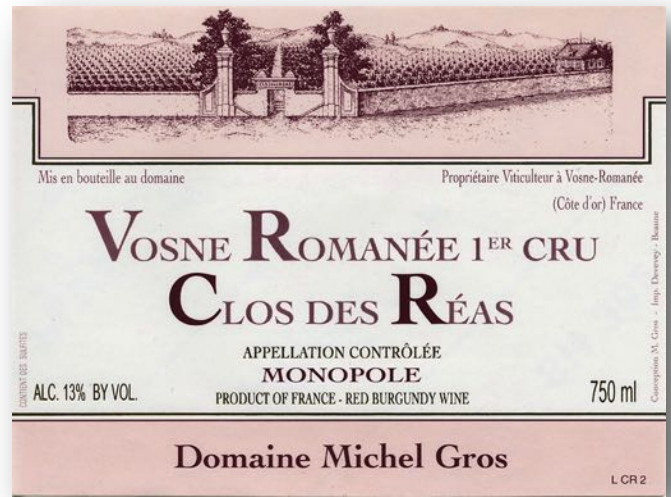
粒が小さく隙間があるミルランダージュの房でなければ、収穫前に続いた数日の雷雨でボトリティス菌が蔓延し、やっ目の前にした収穫物が壊滅していたかもしれません。

そして、果汁の少ないミルランダージュだからこそ実現した濃い色。結実不良により種が無かったり種のサイズが小さかったりすることが幸いした、タンニンの突出しないバランスがとれた自然の凝縮。

成熟が遅れ、比較的冷涼な気象状況のもとでブドウが熟成の最終段階を遂げた為、誕生したワインは濃いフルーツのアロマを丸ごとフレッシュに蓄え、夫々のテロワールの個性をくっきりと描いています。

酸のレベルが高いことはワインの長熟性を示し、一方、低いpHで証明されたこの高い酸味は、タンニンがすでに溶け込んでいるリッチなテクスチャに抱擁され、テイasting上ではさほど目立たないのです。

結果として、2013年のワインはすでに誘惑的な魅力を呈し、ハーモニー、バランス、鮮烈な強さと緻密なアロマを持ち合わせています。ポテンシャルが高く、言うなれば1993年に類似する特徴があり、1993年といえ今日飲んでもなお素晴らしい有望なヴィンテージなのです。



プレスレビュー

Jancis Robinson, January 12, 2015

Savoury oyster sauce on the nose with crunchy black fruit and a lovely pipe tobacco smoke, or maybe a sort of Guinness character! Charming and bright and quirky. (RH) 17.5 / 20

Sarah Marsh, Winter 2014, The Burgundy Briefing N° 16

35 barrels and 60% new oak. Impressively silky smooth and elegant. Ripples gently across the palate. It is discreet, restrained and very long. Just enough of everything and not too much of anything. Score 18.85

Bill Nanson, December 03, 2014

Here is a wider and more spicy nose - though with less aromatic depth, except it does improve in the glass. Lovely over the palate - more concentrated, less lithe. Here is lovely fruit and obvious Vosne-Romanée complexity - this is really excellent today. Probably a 'better' wine than the Brulees, but today I'd rather drink that wine.

Allen Meadows, January 15, 2015

M. Gros indicated that the malo for this wine was extremely long and the nose, while not really reduced, did seem somewhat flat and atypical. On the plus side there is excellent concentration to the middle weight flavors where the velvety mouth feel benefits enormously from the abundance of dry extract that buffers the moderately firm tannic spine on the palate coating, serious and long if mildly oaky finish. This is impressive and should drink well young if desired. ♥



International Wine Challenge 2015 - Silver Medal

今飲んで 91+ ポテンシャル 93 飲み頃予想 2022~2045

さあ、1erの銘酒の登場だ。しかし、やはり、香りは閉じ気味。けど、美しく目が詰まり、完熟ブドウが凝縮している感が伝わってくる。また、ミネラルのツヤと上質感、そして燻香もある。開くとメチャいい香りだろうなあ。にしても以前にあった皮革香が近年は全く消え、とてもクリーンな香りだ。口に含むと味は半開。よってやはりメチャ美味しい。これまではブリュレより劣ることがあったが、近年は樹齢が上がったためか(勝手に検測)ブリュレ以上の品質の年が多い。13年は同格か、やや上となった。(15年06月試飲)

Real Wine Guide N°51 – Autumn 2015